

Cisco Unified Presence インストールガイド Release 6.0(1)

【注意】 この文書はお客様の便宜のために作成された参考和訳であり、お客様とシスコシステムズとの間の契約を構成するものではありません。正式な契約条件は、弊社担当者、または弊社販売パートナーにご確認ください。

このマニュアルでは、1 台のサーバまたはクラスタ環境にある複数のサーバに Cisco Unified Presence をインストールする方法について説明します。

目次

このマニュアルは、次の内容で構成されています。

- [概要 \(P.2\)](#)
- [関連資料 \(P.2\)](#)
- [重要な考慮事項 \(P.3\)](#)
- [Cisco Unified Presence のインストールに関する FAQ \(P.4\)](#)
- [ブラウザ要件 \(P.5\)](#)
- [ハードウェアの設定 \(P.5\)](#)
- [インストールの概要 \(P.6\)](#)
- [インストール前に実行するタスク \(P.6\)](#)
- [インストール情報の収集 \(P.8\)](#)
- [インストール オプションの選択 \(P.13\)](#)
- [Cisco Unified Presence のインストール \(P.14\)](#)
- [インストール後に実行するタスク \(P.21\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.23\)](#)



概要

Cisco Unified Presence 6.0 では、基本的なインストールまたはインストール中の新しいサービス リリースへのアップグレードを実行できます。

インストールのタイプについては、表 1 を参照してください。

表 1 インストールオプション

インストールのタイプ	説明
Basic Install	このオプションは、Cisco Unified Presence の基本的なインストールを表します。インストールディスクからソフトウェアをインストールし、インポート データは使用しません。
Apply Additional Release	このオプションでは、インストールディスクに含まれているソフトウェアのバージョンを最新のサービス リリースでアップグレードできます。

関連資料

Cisco Unified Presence をインストールする前に、次のマニュアルを参照することを強く推奨します。

- Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド*

『*Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド*』では、Cisco Unified Presence の設定、保守、および管理について、順を追って説明しています。
- Cisco Unified Presence 導入ガイド*

このマニュアルは、Cisco Unified Presence および Cisco Unified Communications Manager の設定手順の概要について説明しています。また、Cisco Unified Presence と Microsoft Live Communications Server、Microsoft Active Directory、および Microsoft Office Communicator との統合についても説明しています。
- Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Presence*

このマニュアルは、Cisco Unified Presence のサービスアビリティについて説明しています。アラーム設定、トレース設定、およびその他のレポートについても順を追って説明しています。
- Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド*

このマニュアルは、バックアップの設定方法、Cisco Unified Presence データのバックアップ方法、およびデータの復元方法について説明しています。
- Cisco Unified Communications Operating System for Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド*

このマニュアルは、オペレーティング システム GUI およびコマンドライン インターフェイスを経由して利用できる、ユーティリティへのアクセス方法および使用方法について説明しています。

重要な考慮事項

Cisco Unified Presence をインストールする前に、次の要件および推奨事項を考慮してください。

- Cisco Unified Communications Manager 対応サーバで、Release 5.1(1) 以降のソフトウェアが実行されていることを確認します。
- LCS 統合では、対応する Microsoft LCS Server で LCS 5 が実行されていることを確認します。
- Cisco Unified Presence を既存サーバにインストールする場合、ハードディスク ドライブがフォーマットされ、そのドライブの既存データがすべて上書きされることに注意してください。
- Cisco Unified Presence ソフトウェアを 1 番目のノードまたはパブリッシャ サーバにインストールしてから、2 番目のノードにインストールします。2 番目のノードにインストールする前に、1 番目のノードに 2 番目のノードを設定する必要があります。
- 2 番目のノードが、インストール中に 1 番目のノードサーバおよび Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードに接続できることを確認します。
- クラスタ内のすべてのサーバに、同一のセキュリティ パスワードを入力します。
- コール処理の中断による影響を避けるため、オフピーク時またはメンテナンス時に Cisco Unified Presence ソフトウェアをインストールします。
- ネットワーク上で Cisco Unified Presence をバックアップするには、Secure File Transfer Protocol (SFTP) サーバへのアクセスが必要です。
- インストールを開始する前に、次の説明を十分注意して読んでください。



(注)

Cisco Unified Personal Communicator 要件については、次の URL の『*Release Notes for Cisco Unified Personal Communicator*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6844/tsd_products_support_series_home.html

Cisco Unified Presence のインストールに関する FAQ

この項では、頻繁に寄せられる質問とそれに対する回答を紹介します。Cisco Unified Presence をインストールする前に、この項の内容を十分に確認してください。

Cisco Unified Presence のインストールには、どのくらい時間を要しますか

インストール全体のプロセスには、サーバのタイプに応じて、サーバ 1 台当たり 45 分から 120 分を要します（インストール前後の作業を除く）。

どのパスワードを指定する必要がありますか

Cisco Unified Presence のインストール中に、次のユーザ名とパスワードの指定が必要です。

- Administrator アカウント

Administrator ユーザ名とパスワードを使用して、次のエリアにログインします。

- オペレーティング システムの管理
- 障害復旧システム
- コマンドライン インターフェイス

Administrator ログインは、先頭が英文字で 6 文字以上必要です。英数字、ハイフン、およびアンダースコアを使用できます。コマンドライン インターフェイスを使用して、Administrator パスワードを変更したり、新しい Administrator のアカウントを追加したりできます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

- アプリケーション ユーザのユーザ名とパスワード

アプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを使用して Cisco Unified Presence の管理 GUI にログインします。

- AXL API ユーザ名とパスワード

AXL API ユーザ名とパスワードを使用すると、Cisco Unified Presence の 1 番目のノードにある独自の SyncAgent メカニズムにより、Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードにあるデータベース情報にアクセスできます。

アプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードの入力が必要です。アプリケーション ユーザには、Cisco Unified Communications Manager 対応の 1 番目のノードに割り当てられた Standard AXL API Access 権限が与えられています。デフォルトでは、アプリケーション ユーザのユーザ ID に Standard AXL API Access 権限が与えられています。

Cisco Unified Presence 以外に別のソフトウェアをサーバにインストールできますか

Cisco Unified Presence 6.0 では、Cisco Unified Communications オペレーティング システム の管理機能のソフトウェア アップグレード メニュー オプションを使用して、すべてのソフトウェアのインストールおよびアップグレードを行います。システムがアップロードおよび処理できるのは、シスコが承認したソフトウェアだけです。サードパーティまたは Windows ベースのソフトウェア アプリケーションを、Cisco Unified Presence 6.0 にインストールしたり使用したりはできません。

シスコがインストールをサポートしているのは、どのようなサーバですか

Cisco Unified Presence のリリースをサポートしているサーバについては、次の URL にある『*Hardware Compatibility Matrix for Cisco Unified Presence*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6837/products_device_support_tables_list.html

ブラウザ要件

次のブラウザを使用して、[Cisco Unified Presence の管理]、[Cisco Unified サービスアビリティ]、および [Cisco Unified OS の管理] にアクセスできます。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 以降
- Netscape Navigator バージョン 7.2 以降



(注) Mozilla Firefox など、その他のブラウザのサポートやテストはしていません。

ハードウェアの設定

ソフトウェア インストールの一環として、システム インストーラは、新しいオペレーティング システムおよび Cisco Unified Presence アプリケーション用に、システム BIOS および RAID を設定します。インストール中に設定される BIOS 設定については [表 2](#) を、RAID 設定については [表 3](#) を参照してください。

表 2 HP サーバおよび IBM サーバの BIOS 設定

HP サーバ	IBM サーバ
OS Selection : Linux (新しいモデルには適用されません)	OS Selection : 適用されません
Boot order : CD、C:, Floppy	Boot order : CD、C:, Floppy
Post F1 prompt : Delayed	Post F1 prompt : Delayed
Hyperthreading : Enabled	Hyperthreading : Enabled

表 3 RAID 設定

Cisco MCS 7825 (HP および IBM)	Cisco MCS 7835 (HP および IBM)	Cisco MCS 7845 (HP および IBM)
RAID は適用されません	論理ドライブ : 1	論理ドライブ : 2
RAID は適用されません	RAID タイプ : 1(1+0)	RAID タイプ : 1(1+0)
 (注) Cisco 7825H1 および Cisco 7825I1 では、SATA RAID が有効、RAID タイプが 1 (1+0)、論理ドライブが 1 です。		



(注) インストール中にハードウェア設定手順が失敗した場合、IBM サーバおよび HP サーバにあるブート時ユーティリティを使用して、[表 2](#) および [表 3](#) のように、RAID 設定および BIOS 設定を手動で行います。

インストールの概要

次の項で、1 番目のノードおよび 2 番目のノードをインストールする手順を説明します。インストールを実行する前に、この項をよく確認してください。

- [インストール前に実行するタスク \(P.6\)](#)
- [インストール情報の収集 \(P.8\)](#)
- [Cisco Unified Presence のインストール \(P.14\)](#)
- [インストール後に実行するタスク \(P.21\)](#)

インストール前に実行するタスク

インストールを開始する前に、次のタスクを実行します。

	インストール前のタスク	特記事項
ステップ 1	インストールする前に、1 番目のノードおよび 2 番目のノード(該当する場合)の Cisco Unified Presence の設定に必要な情報を取得します。	P.8 の「 インストール情報の収集 」を参照してください。
ステップ 2	Cisco Unified Presence をインストールする前に、Cisco Unified Presence ノードをアプリケーションサーバとして Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードに追加したことを確認します。	[Cisco Unified Communications Manager の管理] ウィンドウで、[システム] > [アプリケーションサーバ] の順に選択します。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
ステップ 3	Cisco Unified Presence をインストールする前に、Cisco Unified Communications Manager 対応サーバで Cisco AXL Web Service が起動していることを確認します。	[Cisco Unified Communications Manager Serviceability] ウィンドウで、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。
ステップ 4	Cisco Unified Presence をインストールする前に、サーバが Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードにネットワーク アクセスできることを確認します。	
ステップ 5	Cisco Unified Presence の 2 番目のノードをインストールする前に、Cisco Unified Presence の 2 番目のノードをアプリケーションサーバとして Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードに追加したことを確認します。また、2 番目のノードをサーバとして Cisco Unified Presence の 1 番目のノードに追加したことを確認します。	[Cisco Unified Communications Manager の管理] ウィンドウで、[システム] > [アプリケーションサーバ] の順に選択します。 [Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウで、[システム] > [サーバ] の順に選択します。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド』を参照してください。

	インストール前のタスク	特記事項
ステップ 6	DNS を使用している場合、DNS サーバ上の新しいサーバのホスト名を設定したことを確認します。また、DNS サーバが、Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードのホスト名、および他の Cisco Unified Presence ノード (存在する場合) のホスト名を解決できることを確認します。	

インストール情報の収集

表 5 を使用して、Cisco Unified Presence サーバの情報を記録します。クラスタにインストールするサーバごとに情報を収集します。この表をコピーして、サーバごとのエントリを独立した表で記録してください。

各フィールドの詳細については、表 5 を参照してください。



(注)

一部のフィールドはオプションです。設定に不要な場合があります。たとえば、SMTP ホストの設定は省略できます。



注意

一部のフィールドはインストール後に変更できません。変更するには、ソフトウェアの再インストールが必要です。正しい値を入力してください。

表の最後のカラムは、インストール後にフィールドを変更できるかどうかを示しています。変更できる場合は、オペレーティングシステムの管理機能またはコマンドラインインターフェイス (CLI) のどちらで変更できるかを示しています。

表 4 設定データ

設定データ	エントリする値	インストール後にエントリを変更できるか
Administrator Login		いいえ
Administrator Password		はい CLI : <code>set password admin</code>
Application User Username		いいえ
Application User Password		いいえ
AXL User ID		はい
Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードにある AXL API にアクセスできるアプリケーションユーザのユーザ名を入力します。		GUI : [Cisco Unified Presence] > [セキュリティ] > [AXL 設定]
AXL User Password		はい GUI : [Cisco Unified Presence] > [セキュリティ] > [AXL 設定]
Cisco Unified Communications Manager Publisher Host Name		いいえ
Cisco Unified Communications Manager Publisher IP Address		いいえ

表 4 設定データ (続き)




設定データ	エントリする値	インストール後にエントリを変更できるか
Cisco Unified Communications Manager Publisher Security Password  (注) Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードで設定したセキュリティパスワードを入力します。		いいえ
Country		はい CLI : set web-security
DHCP		はい CLI : set network dhcp
DNS Primary		はい CLI : set network dns
DNS Secondary		はい CLI : set network dns
Domain		はい CLI : set network domain
Domain Name Service DNS Enable		いいえ
First Cisco Unified Presence Node Host Name  (注) このパラメータは 2 番目のノードにだけ必要です。		いいえ
First Cisco Unified Presence Node IP Address  (注) このパラメータは 2 番目のノードにだけ必要です。		いいえ
Gateway Address		はい Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理機能を使用： [設定] > [IP] または CLI : set network gateway
Host Name		いいえ

表 4 設定データ (続き)

設定データ	エントリする値	インストール後にエントリを変更できるか
IP Address		はい Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理機能を使用： [設定] > [IP] または CLI : set network ip
IP Mask		はい Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理機能を使用： [設定] > [IP] または CLI : set ip
Location		はい CLI : set web-security
Master Administrator ID		いいえ
Organization		はい CLI : set web-security
Security Password		はい CLI : set password security
SMTP Location		はい CLI : set smtp
State		はい CLI : set web-security
Time Zone		はい CLI : set timezone
Unit		はい CLI : set web-security

表 5 フィールドの定義

フィールド	説明	使用方法
Administrator Login	このフィールドは、このアカウントに割り当てる名前を指定します。	<p>名前は一意にする必要があります。小文字、英数字、ハイフン、アンダースコアを使用できます。先頭は小文字の英数字にする必要があります。</p> <p>このフィールドは必須です。プラットフォームの CLI または Cisco Unified OS の管理機能へのログインに使用するため、記録する必要があります。</p> <p> (注) このフィールドはインストール後に変更できません。</p>
Administrator Password	このフィールドは、Administrator アカウントのパスワードを指定します。	このパスワードは、Cisco Unified OS の管理機能、障害復旧システム、および CLI へのログインに使用します。
Application User Username and Password	このフィールドは、Cisco Unified Presence の管理機能用のユーザ名とパスワードを指定します。	このユーザ名とパスワードは、Cisco Unified Presence の管理機能の GUI へのログインに使用します。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol	<p>DHCP を使用してサーバのネットワーク設定を自動的に設定するには、[Yes] を選択します。</p> <p>[No] を選択した場合、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイ、および DNS 設定の入力が必要です。</p>
DNS Enabled	<p>ドメイン ネーム システム (DNS) サーバは、ホスト名から IP アドレスまたは IP アドレスからホスト名を解決するデバイスを表します。</p> <p>DNS フィールドは、DHCP を使用していない場合にだけ表示されます。</p>	<p>DNS サーバを使用しない場合は [No] を選択します。DNS が無効の場合、Cisco IP Telephony ネットワークのすべてのネットワーク デバイスに対して IP アドレス (ホスト名ではなく) だけを入力します。</p> <p>DNS サーバを使用する場合は、[Yes] を入力して DNS を有効にすることを推奨します。DNS を無効にすると、ドメイン名を解決する機能に制限が生じます。</p>
DNS Primary	Cisco Unified Presence は、ホスト名を解決するとき、最初にこの DNS サーバに接続します。	<p>プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進表記で IP アドレスを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です (0.0.0.0 を除く)。</p> <p>DNS を [Yes] に設定した場合、このフィールドは必須です。</p>

表 5 フィールドの定義 (続き)

フィールド	説明	使用方法
DNS Secondary	プライマリ DNS サーバに障害が発生した場合、Cisco Unified Presence はセカンダリ DNS サーバに接続を試みます。	このオプションフィールドに、セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進表記で IP アドレスを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です (0.0.0.0 を除く)。
Domain	このフィールドは、このマシンが設置されているドメインの名前を表します。	DNS を [Yes] に設定した場合、このフィールドは必須です。
Gateway Address	ゲートウェイは、他のネットワークへの入り口として機能するネットワーク ポイントを表します。発信パケットは、ゲートウェイに送信され、最終あて先に転送されます。	ddd.ddd.ddd.ddd 形式でゲートウェイ IP アドレスを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です (0.0.0.0 を除く)。 ゲートウェイがない場合も、このフィールドに 255.255.255.255 を設定する必要があります。ゲートウェイがない場合、同じサブネット内のデバイスとだけ通信できます。
Host Name	ホスト名は、ホストを指定する IP アドレスに割り当てられているエイリアスを表します。	ネットワークで一意のホスト名を入力します。 ホスト名は最大 64 文字で、英数字とハイフンを使用できます。 DHCP を [No] に設定している場合、このフィールドは必須です。
IP Address	このフィールドは、このマシンの IP アドレスを指定します。このネットワークのサーバを識別します。ネットワークの他のマシンでは、この IP アドレスを使用できません。	ddd.ddd.ddd.ddd 形式で IP アドレスを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です (0.0.0.0 を除く)。 DHCP を [No] に設定している場合、このフィールドは必須です。
IP Mask	このフィールドは、このマシンの IP サブネット マスクを指定します。サブネット マスクと IP アドレスで、ネットワーク アドレスおよびホスト アドレスを指定します。	ddd.ddd.ddd.ddd 形式で IP マスクを入力します。ddd の値は、0 ~ 255 です (0.0.0.0 を除く)。 有効なマスクは、左側に「1」ビットが連続し、右側に「0」ビットが連続します。 たとえば、255.255.240.0 (11111111.11111111.11110000.00000000) は、有効なマスクです。 255.255.240.240 (11111111.11111111.11110000.11110000) は、無効なマスクです。


表 5 フィールドの定義 (続き)

フィールド	説明	使用方法
SMTP Location	このフィールドは、電子メールの発信に使用する SMTP ホストの名前を指定します。	SMTP サーバのホスト名またはドット付き IP アドレスを入力します。ホストには、英数字、ハイフン、またはピリオドを使用できます。ホスト名の先頭は英数字にする必要があります。 電子通知を使用する場合、このフィールドは必須です。使用しない場合は空白のままにします。
Time zone	このフィールドは、現地時間帯とグリニッジ標準時 (GMT) からのオフセットを示します。	時間帯を変更する場合は [Yes] を選択します。 マシンが設置されている場所に最も近い時間帯を選択します。

インストールオプションの選択

ソフトウェアのインストール開始後、表 6 に示すオプションのいずれかを選択するように要求されます。

表 6 インストールオプション

インストール オプション	説明
Basic Install	このオプションは基本的なインストールを表し、インポート データは使用しません。
Apply Additional Release	このオプションは、システムを設定する前にプレインストール ソフトウェアを最新のサービス リリースでアップグレードできます。  (注) このオプションを選択する前に、ソフトウェア イメージが DVD またはリモート サーバで利用できるかどうか確認してください。

Cisco Unified Presence のインストール

この手順を使用して Cisco Unified Presence アプリケーションのインストールを開始できます。

ステップ 1 インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して DVD からブートします。サーバのブートシーケンスが完了すると、[DVD Found] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 メディア チェックを実行するには、[Yes] を選択します。

[Media Check] ウィンドウが表示されます。

メディア チェックが完了すると、[Media Check Result] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Media Check Result に [PASS] が表示された場合は [OK] を選択し、インストールを続行します。

メディア チェックに失敗した場合は別のコピーを Cisco.com からダウンロードするか、シスコから別のディスクを直接入手してください。

[OK] を選択後、システム インストーラはさまざまなハードウェア チェックを実行し、システムが Cisco Unified Presence 用に正しく設定されているかを確認します。次のチェックを実行します。

- まず、インストール プロセスとしてドライバが正しいことを確認します。次の警告が表示されることがあります。

Drivers not found, do you want to install manually?

インストールを続行するには、[Yes] を選択します。

- 次に、サポート対象のハードウェアのプラットフォームが存在するかどうか確認します。サーバが正しいハードウェア要件を満たしていない場合、インストール プロセスは致命的なエラーで失敗します。このインストールの失敗が誤りであると思われる場合はエラーをキャプチャし、シスコのサポートに報告してください。
- 次に、インストール プロセスは RAID 設定および BIOS 設定を確認します。インストール プロセス中にハードウェア設定を変更した場合、システムを再起動するようにプロンプトが表示されます。

ハードウェア チェックが完了すると、[Product Deployment Selection] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Cisco Unified Presence をインストールするには、[OK] をクリックします。

[Overwrite Hard Drive] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [Overwrite Hard Drive] ウィンドウに、ハード ドライブにあるソフトウェアのバージョン（存在する場合）、および DVD のバージョンが表示されます。インストールを続行するには [Yes] を選択し、キャンセルするには [No] を選択します。



注意

[Overwrite Hard Drive] ウィンドウで [Yes] を選択した場合、ハード ドライブに存在するすべてのデータが上書きされ破棄されます。

[Platform Installation Wizard] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 インストールを続行するには、[Proceed] を選択します。

[CUPS Node Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ7 インストールを続行するには、[CUPS Node Configuration] ウィンドウで **[OK]** を選択します。



(注) インストールを続行する前に、Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードに Cisco Unified Presence が設定されていること、および Cisco Unified Communications Manager サーバへのネットワーク アクセスが可能なことを確認します。詳細については、「[インストール前に実行するタスク](#)」を参照してください。

[Apply Additional Release] ウィンドウが表示されます。

ステップ8 インストール中にソフトウェアの最新リリースにアップグレードする場合は **[Yes]** を選択し、[P.15 の「追加リリースの適用」](#)に進みます。

ステップ9 アップグレードなしで DVD 内のソフトウェアをインストールする場合は **[No]** を選択します。

[Basic Install] ウィンドウが表示されます。

ステップ10 **[Continue]** を選択し、[P.17 の「基本インストール」](#)に進みます。

追加リリースの適用

Apply Additional Release を選択する場合、インストール ウィザードは、まず DVD のソフトウェア バージョンをインストールし、システムを再起動します。特定のネットワーク設定パラメータおよびアップグレード ファイルの場所を入力するようにプロンプトが表示されます。

[Install Upgrade Retrieval Mechanism Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ11 アップグレード ファイルを取得するアップグレード取得メカニズムを選択します。

- **SFTP** : Secure File Transfer Protocol (SFTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。[P.16 の「リモートサーバからのアップグレード」](#)に進みます。
- **FTP** : File Transfer Protocol (FTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。[P.16 の「リモートサーバからのアップグレード」](#)に進みます。
- **LOCAL** : CD または DVD からアップグレード ファイルを取得します。[P.15 の「ローカルディスクからのアップグレード」](#)に進みます。

ローカル ディスクからのアップグレード

ローカル ドライブからアップグレードする前に、適切なパッチ ファイルを [Cisco.com](#) からダウンロードし、CD または DVD へファイルをコピーする必要があります。パッチ ファイルのサイズが大きいため、ほとんどの場合は DVD にコピーが必要です。

パッチ ファイル名の形式は次のようになります。

```
cisco-ipt-k9-patchX.X.X.X-X.tar.gz
```

X.X.X.X-X は、リリースおよびビルド番号を表します。



(注) インストールする前に、パッチ ファイルを `untar` または `unzip` しないでください。有効なファイルと認識されなくなります。

ステップ 12 [Local Patch Configuration] ウィンドウが表示された場合、パッチ ディレクトリおよびパッチ名（存在する場合）を入力し、[OK] を選択します。



(注) パッチ ディレクトリの入力が必要なのは、CD または DVD のルート ディレクトリにパッチが保存されていない場合だけです。

[Install Upgrade Patch Selection Validation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 13 CD または DVD で利用可能なパッチ ファイルがウィンドウに表示されます。このパッチでアップグレードするには、[Continue] を選択します。

[CUPS Node Configuration] ウィンドウが表示されます。P.17 の「基本インストール」に進みます。

リモート サーバからのアップグレード

リモート サーバへの FTP 接続または SFTP 接続でアップグレードする場合、まずネットワーク設定が必要です。

[Auto Negotiation Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 インストール プロセスは自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度と二重設定を自動的に設定します。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、[Yes] を選択します。[DHCP Configuration] ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、[No] を選択します。

[NIC Speed and Duplex Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 15 自動ネゴシエーションを無効にする場合は、ここで適切な NIC 速度と二重設定を手動で選択します。[OK] を選択してインストールを続行します。

[DHCP Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 ネットワーク設定では、ノードおよびゲートウェイのネットワーク固定 IP アドレスを設定するか、または Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するか選択します。

- ネットワーク内に DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、[Yes] を選択します。システムが再起動し、ネットワークの接続が確認されます。P.17 の「リモートパッチの取得」に進みます。
- ノードの固定 IP アドレスを設定する場合は [No] を選択します。
[Static Network Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 17 DHCP 使用しない場合は固定ネットワーク設定の値を入力し、**[OK]** を選択します。詳細については、表 5 を参照してください。

[DNS Client Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 18 DNS を有効にするには、**[Yes]** を選択し、DNS クライアント情報を入力し、**[OK]** を選択します。詳細については、表 5 を参照してください。

ネットワークを設定し接続が確認されると、[Remote Patch Configuration] ウィンドウが表示されません。

リモートパッチの取得

ステップ 19 リモート ファイル サーバの場所およびログイン情報を入力します。ネットワークを再起動した後、リモート サーバに接続し、利用可能なアップグレードパッチのリストを取得します。

[Install Upgrade Patch Selection] ウィンドウが表示されます。

ステップ 20 インストールするアップグレードパッチを選択します。パッチをダウンロードし、展開し、インストールします。その後システムを再起動します。

[CUPS Node Configuration] ウィンドウが表示されます。

インストールを続行するには、[CUPS Node Configuration] ウィンドウで **[Yes]** を選択します。P.17 の「基本インストール」に進みます。

基本インストール

ステップ 21 [Basic Install] ウィンドウで **[Continue]** を選択します。

[Timezone Configuration] ウィンドウが表示されます。



ヒント インストールを続行する前に、Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードに Cisco Unified Presence が設定されていること、および Cisco Unified Communications Manager サーバへのネットワーク アクセスが可能なことを確認します。

ステップ 22 上下の矢印キーを使用して、サーバの適切な時間帯を選択し、**[OK]** を選択します。

[Auto Negotiation Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 23 インストール プロセスは自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度と二重設定を自動的に設定します。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、**[Yes]** を選択します。[DHCP Configuration] ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、[No] を選択します。
[NIC Speed and Duplex Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 24 自動ネゴシエーションを無効にする場合は、ここで適切な NIC 速度と二重設定を手動で選択します。[OK] を選択してインストールを続行します。

[DHCP Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 25 DHCP を使用する場合は [Yes] を選択し、P.18 の「Administrator ログインの設定」に進みます。

サーバの固定 IP アドレスを設定する場合は [No] を選択します。

[Static Network Configuration] ウィンドウが表示されます。

固定ネットワーク値および DNS の設定

ステップ 26 固定ネットワーク設定値を入力し、[OK] を選択します。詳細については、表 5 を参照してください。

[DNS Client Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 27 [Yes] を選択して DNS クライアント情報を入力し、[OK] を選択します。詳細については、表 5 を参照してください。

[Administrator Login Configuration] ウィンドウが表示されます。

Administrator ログインの設定

ステップ 28 表 4 を参照して、Administrator ログインとパスワードを入力します。

[Unified CM Publisher Connectivity] ウィンドウが表示されます。

ステップ 29 表 4 を参照して Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのホスト名、IP アドレス、およびセキュリティ パスワードを入力し、[OK] を選択して次に進みます。

接続およびバージョンが確認された後、[First CUPS Node Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 30 クラスタの 1 番目の Cisco Unified Presence ノードにインストールするかどうかを選択します。

- 1 番目の Cisco Unified Presence ノードにインストールする場合は [Yes] を選択します。
[Application User Configuration] ウィンドウが表示されます。P.18 の「1 番目のノードの設定」に進みます。
- 2 番目の Cisco Unified Presence ノードにインストールする場合は [No] を選択します。
[CUPS Node Configuration] ウィンドウが表示されます。P.19 の「2 番目のノードの設定」に進みます。

1 番目のノードの設定

ステップ 31 表 4 を参照してアプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力し、[OK] を選択します。

[AXL API Access Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 32 表 4 を参照して AXL ユーザの ID とパスワードを入力します。

[Certificate Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ 33 表 4 を参照して証明書情報を入力し、[OK] を選択します。

[SMTP Host Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 34 SMTP ホストを設定する場合は [Yes] を選択し、SMTP の場所を入力します。



(注) 特定のオペレーティング システム機能を使用するには SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバは、Cisco Unified Communications オペレーティング システム の管理機能の GUI またはコマンドライン インターフェイスを使用して、後で設定することもできます。

[Platform Configuration Confirmation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 35 ソフトウェアのインストールを開始するには [OK] を選択します。設定を変更する場合は [Back] を選択します。

ステップ 36 インストール処理が完了すると、Administrator アカウントとパスワードを使用してログインするようにプロンプトが表示されます。

ステップ 37 P.21 の「インストール後に実行するタスク」に示すアップグレード後のタスクを完了します。

2 番目のノードの設定

ステップ 38 CUPS Node Configuration が表示された場合は [OK] を選択して次に進みます。



注意

インストールを続行する前に、Cisco Unified Presence の 1 番目のノードおよび Cisco Unified Communications Manager 対応の 1 番目のノードに 2 番目の Cisco Unified Presence ノードを設定したことを確認します。新しいノードには、1 番目の Cisco Unified Presence ノードおよび Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードへのネットワーク アクセスも必要です。

[First CUPS Node Access Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 39 1 番目の Cisco Unified Presence ノードのホスト名および IP アドレスを入力します。

[Certificate Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ 40 表 5 を参照して証明書情報を入力し、[OK] を選択します。

[SMTP Host Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 41 SMTP ホストを設定する場合は [Yes] を選択し、SMTP の場所を入力します。



(注) 特定のオペレーティング システム機能を使用するには SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバは、Cisco Unified Communications オペレーティング システム の管理機能の GUI またはコマンドライン インターフェイスを使用して、後で設定することもできます。

[Platform Configuration Confirmation] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 42** ソフトウェアのインストールを開始するには **[OK]** を選択します。設定を変更する場合は **[Back]** を選択します。
- ステップ 43** インストール処理が完了すると、Administrator アカウントとパスワードを使用してログインするようにプロンプトが表示されます。
- ステップ 44** P.21 の「インストール後に実行するタスク」に示すアップグレード後のタスクを完了します。
-

インストール後に実行するタスク

Cisco Unified Presence をインストール後、使用する前にパラメータの設定およびインストール後の他のタスクの実行が必要です。2 番目の Cisco Unified Presence ノードをインストールする前に、インストールする 1 番目のサーバでこれらの作業を実行してください。

インストール完了後のインストール後のタスクについては、表 7 を参照してください。

表 7 インストール後のタスク

インストール後のタスク	特記事項
Cisco Unified Presence のライセンス ファイルをアップロードします。	[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウで、[システム] > [ライセンス] > [ライセンスファイルのアップロード] の順に選択します。 詳細については、『Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド』を参照してください。
2 番目の Cisco Unified Presence ノードをインストールする前に、Cisco Unified Presence ノードをアプリケーション サーバとして Cisco Unified Communications Manager の 1 番目のノードに追加したことを確認します。	[Cisco Unified Communications Manager の管理] ウィンドウで、[システム] > [アプリケーションサーバ] の順に選択します。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
2 番目の Cisco Unified Presence ノードをインストールする前に、Cisco Unified Presence ノードをサーバとして 1 番目の Cisco Unified Presence ノードに追加したことを確認します。	[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウで、[システム] > [サーバ] の順に選択します。 詳細については、『Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド』を参照してください。
必要な Cisco Unified Presence サービスを起動します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Enterprise SIP Proxy • Cisco Enterprise Presence Engine 	[Cisco Unified Presence Serviceability] ウィンドウで、[Tools] > [Service Activation] の順に選択します。 詳細については、『Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Presence』を参照してください。
Cisco Unified Communications Manager プレゼンス ゲートウェイを設定します。	[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウから、[Cisco Unified Presence] > [プレゼンスエンジン] > [プレゼンスゲートウェイ] の順に選択します。 詳細については、『Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド』を参照してください。

表 7 インストール後のタスク (続き)

インストール後のタスク	特記事項
<p>Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ対応サーバで Cisco Unified Communications Manager 6.0 が実行されている場合は、Cisco Unified Communications Manager に SIP パブリッシュ トランクを設定し、Cisco Unified Presence で SIP パブリッシュを有効にする必要があります。</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager で SIP パブリッシュ トランクを設定するには、『<i>Cisco Unified Communications Manager システム ガイド</i>』の「セッション開始プロトコル (SIP) の概要」の章の「SIP トランク設定チェックリスト」を参照してください。</p> <p>Cisco Unified Presence で SIP パブリッシュを有効にするには、[Cisco Unified Presence] > [設定] の順に選択します。詳細については、『<i>Cisco Unified Presence アドミニストレーションガイド</i>』の「Cisco Unified Presence の設定値」の章を参照してください。</p>
<p>バックアップを設定します。</p> <p>Cisco Unified Presence のデータを毎日忘れずにバックアップしてください。</p>	<p>詳細については、『<i>Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド</i>』を参照してください。</p>

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(0705R)

Copyright © 2007, Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html> で参照できます。

何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メールを送信してください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 (シスコ コンタクトセンター)

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter>

0120-933-122 (通話料無料)、03-6670-2992 (携帯電話、PHS)

電話受付時間 : 平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

OL-12726-01-J